

## 編集後記

▼本報告集は、2005年以来足かけ7年の調査・研究をまとめたものです。2004年3月、一島一市に大合併した佐渡市の問題は、やがて県全体に及ぶと見られました。にいがた自治体研究所は、その問題意識から佐渡の調査・研究を教育研究所と共同して進めたいと提起しました。

八木三男所長を始め所員は、それに応え、市町村合併が、学校統廃合を促進し、それから生ずる問題を明らかにする調査・研究に着手しました。

特に地域に根付いている佐渡独特の伝統芸能（鬼太鼓、能、狂言、人形、民話劇）や豊かな自然が学校教育の中でどのような役割を果たしているか、それが学校統廃合とどう関わるのかなど、教育の面における地域の変貌とその再生の手がかりを見つけたいとの考えに基づくものです。

▼この調査・研究をすすめる上で、「地域と教育」について造詣の深い境野健児さん（福島大学の協力を得られたのは幸いでした。地域のこととは地域で学ぶ）ことを大切に子どもが育つ教育論を探求している研究者です。自身が福島市の農村部に古民家を改修

して住み、自然農法を実践する生活でしたから、福島原発の放射能汚染は過酷な打撃です。震災後は福島のみならず全国や海外にも足を運び研究・啓発をされています。

▼調査の間に、巨大なレーダー基地が、妙見山（1054m）の頂上に来た、2010年から稼働しています。県平和委員会長の関根征士さん（新大名誉教授は、米軍再編の一環でミサイルを常時監視する強力な電波が出ていて、有事なら真っ先に攻撃される、と言います。平和な日本海こそ望みます。

▼1946年1月14日午後5時頃、外海府の高千村役場近くの海岸に、英軍機が不時着し、搭乗者は8人で、総領事、中国派遣の空軍司令官など。

上海から東京に向かったが、荒天に阻まれて、どこかも知らず降りたのです。後に新大教授になる村川新十郎さん（北海道大学院生）が通訳になり、従兄の渡辺浅次さん（長岡高等工業学校生）は機体修理に協力し、500mの滑走路を造るため、集落の人々が手伝い、40日後にダグラスC-47は無事に飛び立ちました。国や県が関与せずに、小集落がすべて対応した、希有な出来事で映画化されます。佐渡は平和希求の島です。

▼この間、数回に渡り佐渡を訪れ、市教育委員会をはじめ小中学校および地元の方々に多大なご協力を得て調査をすすめることができました。

また、現地の会員の方には、宿や車の手配など惜しみないご支援・ご協力をいただき、本報告の編集にも的確なご助言をいただきました。そのお名前を記し深く謝意を表します。

上杉俊孝、菊地一郎、菊地哲明、佐々木秀昭、修理重一、田中要、中川直美、本間正人（内山）

## にいがたの教育情報 No. 108

2012年2月29日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所  
発行人 小林 昭三  
〒951-8116  
新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル  
電話・FAX (025)228-2924  
振替口座・00640-0-12332  
Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp  
印刷所・神林印刷  
TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。